

土地改良事業変更計画概要書

事業名：区画整理事業
（農地中間管理機構関連農地整備事業）
地区名：七ヶ宿西部
所在地：刈田郡七ヶ宿町
事業主体：宮城県

I. 変更理由

本地区の水田は、未整備地が混在し、担い手の規模拡大の支障となっているため、近代営農形態がとれるほ場条件に整備するため、「農地中間管理機構関連農地整備事業」により、平成30年度から事業着手したが、下記項目に変更が生じたことに伴い土地改良事業計画の変更を行うものである。

- 1) 受益面積A=1.2haの減
- ・急傾斜が多く、道路・用排水路の用地が増となり受益面積が減となった。
14.3ha⇒13.1ha
- 3) 施設計画の変更
- ・整地工・・・受益面積の変更によりA=1.2haの減。
 - ・道路工・・・区画形状の変更によりL=137mの減。
 - ・用水路工・・・区画形状の変更によりL=326mの減。
 - ・排水路工・・・区画形状の変更によりL=94mの減。
 - ・暗渠排水・・・受益面積の変更によりA=4.8haの減。

II. 変更内容

1. 受益面積の変更 (1) 地 積

区分 地目	変 更 前		変 更 後		備 考
	現 況	計 画	現 況	計 画	
田	16.3 ha	13.3 ha	16.3 ha	12.0 ha	
畑	0.6	1.0	0.5	1.1	
小計	16.9	14.3	16.8	13.1	
道水路、その他	1.8	4.4	1.9	5.6	
合 計	18.7	18.7	18.7	18.7	

2. 主要工事計画の変更 (1) 事業目的別面積の変更

種 別	変 更 前	変 更 後	備 考
地区面積	18.7 ha	18.7 ha	
整地工	14.3 ha	13.1 ha	
道路工	3,716 m	3,579 m	
水路工	7,555 m	7,135 m	
暗渠排水工	13.3 ha	8.5 ha	
客土工	- ha	- ha	

3. 事業量の変更

(単位：千円)

工 種	変 更 前		変 更 後		増 減	
	事 業 量	事 業 費	事 業 量	事 業 費	事 業 量	事 業 費
純工事費		591,700		598,500		6,800
区画整理	14.3 ha	577,700	13.1 ha	551,800	▲ 1.2 ha	▲ 25,900
整地工	14.3 ha	147,300	13.1 ha	125,000	▲ 1.2 ha	▲ 22,300
道路工	3,716 m	111,200	3,579 m	166,900	▲ 137 m	55,700
水路工	7,555 m	319,200	7,135 m	259,900	▲ 420 m	▲ 59,300
用水	3,552 m	114,200	3,226 m	87,300	▲ 326 m	▲ 26,900
排水	4,003 m	205,000	3,909 m	172,600	▲ 94 m	▲ 32,400
暗渠排水工	13.3 ha	14,000	8.5 ha	46,700	▲ 4.8 ha	32,700
客土工	- ha	-	- ha	-	- ha	-
測量試験費	一 式	40,300	一 式	53,400	一 式	13,100
用地補償費	一 式	20,000	一 式	19,000	一 式	▲ 1,000
換 地 費	一 式	25,000	一 式	26,100	一 式	1,100
営 繕 費	一 式	-	一 式	-	一 式	-
その他経費小計		85,300		98,500		13,200
事業費合計		677,000		697,000		20,000
事務的経費	一 式	33,000	一 式	34,000	一 式	1,000
総事業費		710,000		731,000		21,000

4. その他

(1) 工事予定期間

変更前				変更後				備 考
着手	平成	30	年度	着手	平成	30	年度	
完了	令和	9	年度	完了	令和	9	年度	

(2) 事業費の変動率

$$C = \frac{\text{変更後事業費} - (\text{変更前確定総事業費} + \text{自然増額} + \text{請負差額} + \text{コスト縮減} + \text{その他})}{\text{変更前確定総事業費}} \times 100$$

$$= \frac{697,000 - (677,000 + 20,300 + 0 + 0 + 14,000)}{677,000} \times 100$$

$$= \frac{\text{▲ 14,300}}{677,000}$$

$$= \text{▲ 2.1 \%}$$

自然増額：20,300 千円
 請負差額：0 千円
 コスト縮減額：0 千円
 その他変更額：14,000 千円

※上記変動率は、事務的経費を除いた変動率

目 次

第一章：	目	的	
第二章：	地域の所在及び現況		
第三章：	基本計画		
第四章：	工事又は管理の要領		
第五章：	換地計画の要領		
第六章：	費用の概算		
第七章：	効		
第八章：	他の事業との関係		
第九章：	計画概要		

第一章 目 的

本地区は、宮城県南西部の七ヶ宿町の西側に位置し、2つに分区する形で点在している。七ヶ宿町は、南が福島県、西が山形県との境界となっており、奥羽山脈蔵王山麓の南側に位置する山間の農村地帯である。

生産基盤となっている水田は、5～10a前後の未整備地が混在し、用排水路は未分離で土水路、農道も不備なため田越しでの農作業となっており、担い手の規模拡大の支障となっている。

これらの阻害要因を改良し、近代営農形態がとれるほ場条件に整備するため、「農地中間管理機構関連農地整備事業」により、区画形状の改良、用排水路の分離改修、農道の整備、暗渠排水、耕地の集団化等を総合的に実施し、農用地利用集積の積極的な推進を図ることを目的とする。

第二章 地域の所在及び現況

第1節 地 域

宮城県刈田郡七ヶ宿町

第2節 地 積

市町村名 \ 現況地目	田	畑	小 計	その他	計	備 考
	ha	ha	ha	ha	ha	
七ヶ宿町	16.3 16.3	0.6 0.5	16.9 16.8	1.8 1.9	18.7 18.7	
計	16.3 16.3	0.6 0.5	16.9 16.8	1.8 1.9	18.7 18.7	

第3節 現 況

第1項 地 形

本地区は一級河川白石川沿いの山間の沢々に点在する農用地で、傾斜は1/22～1/133（主傾斜1/35）で、概ね北西から南東方向にあり、受益地の最高標高はTP. 499. 6m、最低標高はTP. 479. 6mである。

第2項 地 質、土 壤

本地区の地質は、第三系中新統 固結火山性堆積物及び半固結堆積物より形成され、土壌は下記の通りである。

土 壤 状 況									
番 号	J92	K93							計
土壌統区名	礫層土壌 砂土河床型	礫層土壌 壤土マンガン型							-
面 積 (ha)	4. 0	12. 3							16. 3
	(0. 4)	(0. 2)							(0. 6)
	4. 0	12. 3							16. 3
	(0. 4)	(0. 1)							(0. 5)
地形・傾斜	1/22～1/133 (1/35)								-
乾 湿	湿	湿							-

面積の下段()は普通畑

第3項 一般気象

観 測 所 名	白 石 観 測 所		自 平 成 19 年 ～ 至 平 成 28 年	
	かんがい期5～8月	非かんがい期9～4月	計又は平均	備 考
平 均 気 温	20. 4 ℃	8. 0 ℃	14. 2 ℃	
降 水 量	601. 0 mm	707. 2 mm	1, 308. 2 mm	
根 雪 期 間	無 霜 期 間	最 多 風 向	最 大 風 速	積 算 温 度
—	—	W	21. 2 m/s	—

第4項 特殊気象

単位：雨量：mm 旱天日数：日

観 測 所 名	白 石 観 測 所									
自 昭 和 18 年	第 一 位		第 二 位		第 三 位		第 四 位		第 五 位	
至 平 成 28 年	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日	数 量	年 月 日
最 大 日 雨 量	275	S23. 9. 16	215	H11. 4. 25	195	H19. 7. 15	189	S25. 8. 3	170	S33. 9. 26
最 大 時 間 雨 量	291	S23. 9. 15	275	S23. 9. 16	272	S61. 8. 4	264	H11. 4. 23	225	H27. 9. 9
3 日 連 続 量	291	S23. 9. 15	291	S23. 9. 14	275	S23. 9. 16	272	S61. 8. 4	272	S61. 8. 3
最 大 連 続 量	336	S27. 9. 6	309	H19. 7. 10	293	S37. 7. 5	291	S23. 9. 15	286	H10. 8. 25
最 大 連 続 数	65	S40. 1. 14	62	H12. 1. 14	55	H25. 2. 7	54	S57. 1. 6	54	H11. 1. 1
積 雪 量	—		最大凍結深		—					

第5項 水利状況

(1) 用水状況

本地区の用水源及び用水系統は分区毎に異なるが、主に阿武隈川水系一級河川白石川及びその支流を主な水源とする慣行水利権にてかんがいしており、一部では後背山地からの渓流水を利用している区域もある。用水は各分区の取水施設で取水後、現況の用排兼用土水路を流下し、地区内に導水されるが、水路密度が低く田越しでのかんがいをしている水田もあり、水管理に苦慮している。

(2) 排水状況

本地区の排水は分区毎に異なるが、地区内の用排兼用水路に排水され、阿武隈川水系一級河川白石川へ自然排水されている。地区内の排水路は、用排兼用の土水路が主であり、水路底が浅いうえ、水路に接しない水田もあり、排水作業に支障を来している。

第6項 地域環境の概要

本地区は、森林や河川等に囲まれており、ヒメサユリ、ネジバナ等貴重な植物やメダカなどの魚類、両生類ではモリアオガエルなどが生息している。又、ニホンザル、ニホンカモシカ、ニホンリス等の小・中動物も生息しており、豊かな自然を擁した地域である。

第三章 基本計画

第1節 基本計画の要旨

本地区は2分区に区分され、各分区の水田は5a～10a前後の未整理地となっている。また用排水路は未分離の土水路で、圃場は湧水が多く湿田状態であり、農道も不備なため田越しでの農作業等、営農に多大な支障をきたしており、農業生産性の向上、近代的営農には程遠い状況にある。

よって、本事業によりほ場の大区画化、道路・用排水路、暗渠排水等の整備を行い、耕地の汎用化、水管理の合理化を図るとともに、農地の利用集積と経営体の育成・支援を一体化に行い、効率的かつ安定的な農業の確立を目指すものである。

第2節 主要工事計画

			14.3
1. 整地工	A =	13.1	ha
		3,716	
2. 道路工	L =	3,579	m
		3,552	
3. 用水路工	L =	3,226	m
		4,003	
4. 排水路工	L =	3,909	m
		13.3	
5. 暗渠排水工	A =	8.5	ha

第四章 工事又は管理の要領

第1節 工事の内容

工事の内容は、主要工事計画で述べたとおりである。

第2節 管理の内容

本事業により造成される施設は適切な管理が必要となり、築造する農道及び用排水路については七ヶ宿町が管理する。

第五章 換地計画の要領

第1節 換地計画樹立の必要性

本地区の農地は未整備であり、耕作道路も狭少で末端水路は殆どが用排兼用の土水路のため、合理的水管理や大型機械による省力化等が進まず近代的営農への転換に支障をきたしている。また、分散した農地が多いため効率的農作業ができない状況にある。

よって、本事業を契機に農地の生産基盤である区画形質の改善、用排水路・農道の整備、換地による農地の集団化を総合的に実施し、農業機械の効率的な作業と適正な水管理を行いうる生産性の高い条件に整備することとしているため、工事完了後の区画に対応した権利関係の再編を行う換地計画を必要とする。

第2節 換地計画樹立の基本方針

(1) 従前地の地積の基準

換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出があった場合、若しくはそれと同等の実測図面が提出され、換地委員会が適当と認めた場合は、その申し出があった地積とする。

(2) 農用地集団化の方法

区 分	地帯別・グループ 別団地の設定	個 人 別 換 地 の 方 法		
		位 置 設 定	1戸当り目標団地数	区画畦畔の取扱い
田堀	集落別の集団化とともに担い手農家の所有農地が面的集積の核となるように集団化を図り、大区画の効用を充分に発揮できるように配慮する。	個人別的位置については、各人の従前の土地の利用等を考慮して集団化を図るが、担い手農家による生産集積が行われ易いように集団化を図り、大区画の効用を充分発揮できるよう配慮するものとする。	所有農地1戸当たり 1～2団地	区画畦畔の取り扱いについては、大区画の機能を損なわないよう固定畦畔とし、分割する場合には畦畔を築立せず杭による分割表示を基本とする。
追分川根				

(3) 非農用地の換地方針

換地区	用 途	非農用地区域の 位 置	面 積 (㎡)	換 地 の 手 法	換 地 取得予定者
田堀	原野	七ヶ宿町字桧木沢地内外	722	特定用途用地	従前所有者
-	-	-	-	-	-
田堀	道路・水路	七ヶ宿町字桧木沢地内外	17,642.15 19,786	共同減歩見合いによる 創設換地	七ヶ宿町
追分川根	道路・水路	七ヶ宿町字追分川根地内外	8,616.92 9,570	共同減歩見合いによる 創設換地	七ヶ宿町
計			26,981.07 29,356		

(4) 清算の方法

比例地積清算方式による。

第3節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認にかかる事項

(単位 : ha)

区 分	公 用 公 共 用 地				一般国有地	合 計
	国 有 地	県 有 地	市町村有地	計		
道 路	-	-	0.3	0.3	-	0.3
-	-	-	0.5	0.5	-	0.5
水 路	-	-	0.2	0.2	-	0.2
-	-	-	0.3	0.3	-	0.3
そ の 他	-	-	-	-	0.0	0.0
-	-	-	-	-	0.0	0.0
計	-	-	0.5	0.5	0.0	0.5
-	-	-	0.8	0.8	0.0	0.8

第六章 費用の概算

	(710,000)	() は事務的経費を含む
	(731,000)	
	677,000	
一金	697,000	千円也

第七章 効 用

項 目 区 分	年総効果（便益）額 （千円）	年増加農業所得額 （千円）	備 考
作 物 生 産 効 果	3,432 2,667	326 745	変更前：令和4年度単価 変更後：令和7年度単価
営 農 経 費 節 減 効 果	31,686 37,507	31,820 37,546	
維 持 管 理 費 節 減 効 果	▲ 1,805 ▲ 1,913	▲ 344 ▲ 240	
耕 作 放 棄 防 止 効 果	- -	- -	
農 業 労 働 環 境 改 善 効 果	1,948 1,772	- -	
国産農産物安定供給効果	419 507	- -	
計	35,680 40,540	31,802 38,051	

	716 百万円
総費用額	910 百万円
	744 百万円
（参考）総便益額	937 百万円

第八章 他の事業との関係

該当なしに付き省略

項 目 区分	事 業 名	事 業 主 体	受益面積 (ha)	備 考

第九章 計画概要図

別 紙 参 照